

2017 年度 事業計画書 予算書



タンザニア 聖アンナ・ミッション病院で働く元奨学生


JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 新年度の抱負	1
2. 海外諸活動	2
2-1 海外派遣	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	2
(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー	3
(3) タンザニア 弓野綾ワーカー	3
(4) 短期	4
2-2 研修生・奨学金支援	4
2-3 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	9
(1) SALT（次世代のための健康と衛生）プロジェクト カンボジア	9
(2) シロアムプロジェクト ケニア	9
(3) 学校保健教育プロジェクト バングラデシュ	10
(4) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト タンザニア	10
2-4 災害救援復興支援	11
3. 国内諸活動	11
3-1 国際保健人材育成	11
3-2 東日本大震災被災者支援	12
3-3 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動	12
3-4 マーケティング	15
4. 運営体制	17
4-1 社員総会	17
4-2 理事会	17
4-3 委員会	17
4-4 事務局	18
5. 予算書	19
収支予算書（正味財産増減ベース）	19
収支予算書内訳表（正味財産増減ベース）	22

1. 新年度の抱負

JOCS の理想を掲げて

<会長 畑野研太郎>

世界は不安に包まれている。いや、不安はいつの時代にもあっただろう。しかし、それでも不安を感じる人々が急速に増えているように思う。そして、不安により動かされた人々がさらに、恐怖を、分断を、争いを、世界中に巻き起こしている。その結果、不安の増殖はより速度を速めていく。不安に感じることの理由はさまざま。世界政治が不安定になり、経済的な危機の匂いが漂い、格差が拡大し、戦争の恐れを感じ、テロや殺人が日常の中に忍び込んでくる。しかし不安の最大の理由は、人々が信じている理想が見えなくなってきたことではないだろうか。それでは理想は本当に消えたのか。決してそうではない。こういう時代となってきたからこそ、JOCS は理想を掲げて歩み続けることが求められているのだと感じる。

JOCS が掲げて歩む理想とは何か。それは『平和』である。『平和』を築くということである。世界に『平和』をもたらせるものとしては、JOCS はあまりにも小さいだろうか。たしかに私たちは小さな群れである。しかし、小さな変化が巨大な結果を生むことを、カオス理論は教えている。何よりも、私たちが祈りをもって行う小さな行動を用いてくださる方を私たちは信じて歩んでいる。

時代が良くても悪くても私たちは『平和』を創り出す努力を続けなくてはならない。今年度は 5 カ年計画の最終年である。現 5 カ年計画の課題の一つは、私たちの与えられた任務を堅実に続けながら、JOCS の継続可能性を再建することであった。今年度は、この 5 年間の歩みを振りかえり、新しい計画を練り直さなくてはならない年である。時が良くても悪くても、私たちは『平和』を創り出すことをめざして歩み続けなくてはならない。5 年後、10 年後、100 年後も視野に入れながら。

JOCS は今年度も、ワーカー派遣、奨学生の支援、プロジェクト・りとるを通して『平和』を創り出す使命を続けていきたい。ワーカーの、奨学生（元奨学生）たちの、そして大切な協力団体たちの、そして海外業務が多くなってきた事務局スタッフたちの働きを通して、この事業を続けていく。しかし、『平和』を創り出すという仕事を、彼らに丸投げして済ますわけにはいかない。『平和』を創り出すのは、JOCS を祈り支えている私たち皆の仕事である。それぞれが置かれた場において、この理想を高く掲げて歩みたいものである。

ワーカー、奨学生（元奨学生）、協力団体たち、事務局スタッフの安全が守られますように、どうか引き続きお祈りください。

2. 海外諸活動

海外派遣事業の評価と採用活動、奨学金の効率的な実施と新規調査・開拓、協働プロジェクトの継続実施と事後評価をする。

〔2－1〕 海外派遣

バングラデシュの山内ワーカーとタンザニアの弓野ワーカーは任期終了前の終了時レビューを実施し、バングラデシュの岩本ワーカーは任期中間時の中間レビューを実施する予定である。また山内ワーカーは第3期派遣2回目の自記式アンケートを行う。

（1）バングラデシュ 岩本直美ワーカー （看護師）

派遣先：L'Arche Mymensingh （ラルシュ・マイメンシン）

赴任期間：2016年7月～2019年7月

活動概要：知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをしている。

- 1) コミュニティ5カ年の覚え書きに沿い、メンバーたちが選択した2017年度優先事項を実施する。特に細則が策定された職務および給与規定について、現実に呼応したものであるか評価する。
- 2) 齟齬のあるコミュニティの現状理解および将来のリーダーシップについて、現地と国際ラルシュの相互理解を計る。アシスタントたちより選出されたコーディネーターの働きを支援する。特に人数の増えた作業所と成人デイケアプログラム（レインボウチーム）が、順調に機能するよう配慮する。
- 3) 新しく稼動したコミュニティカウンスル（評議会）とコアメンバーカウンスル（障がいのあるメンバーの代表者からなる評議会）が十全に機能するよう支援する。
- 4) 国内外の専門家に支援を依頼し、アシスタントの養成プログラムを強化する。
- 5) 各コアメンバー（障がいのあるメンバー）の達成目標に向けて生活支援がなされるよう、各リーダーたちを支援する。特にコアメンバー一人ひとりの物語を大切に記録していく。
- 6) 地域に暮らすコアメンバーたちと家族の支援、特に月例の母親たちの分かち合いを大切にしてその連帯を促す。
- 7) 国際担当者による理事会評価を実施し、新たな体制強化を計る。
- 8) バングラデシュ国内支援ネットワークの強化を図る。ラルシュマイメンシン理事会における役割の明確化、地元ロータリークラブとの交流を深め動機付けを図る。国内支援強化の戦略について、識者の助言を乞う。行政からのさらなる支援獲得を図る。
- 9) ラルシュの家の建築を10月に完成させ、夢の家の移転を11月に完了する。年内に花の家の移転計画を実施する。メンバーたちが新しい環境に速やかに順応できるよう支援する。作業所とコミュニティホールの移転については、立地条件などを十分検討し

決定していく。

- 10) 電気自動車をさらに 1 台購入する。それに先立ち選出されたアシスタントの免許取得を、行政の支援を得て早急に図る。
- 11) 短時間勤務ができるパソコン管理担当者を採用する。
- 12) 国内外のボランティアの受け入れを行なう。

(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー (理学療法士)

派遣先：PCC (Protibondhi Community Centre：障がい者コミュニティセンター)

赴任期間：2015 年 6 月～2018 年 7 月

活動概要：主に理学療法技術者のトレーニングをしている。

1) PCC (障害者コミュニティセンター、マイメンシン県)

- ・2017 年 3 月より、PCC の一部門である Community Based Rehabilitation for Disabled People (CBRDP) プロジェクトの新しいスタッフ向けのコースを開始する。
- ・女性クラブの販売部門“オンクール(「芽生え」の意)”の支援を継続する。またマーケティング担当者の教育を行う。

2) Kailakri Clinic (カイルクリ・クリニック、タンガイル県)

- ・パラメディックの理学療法コースを実施する。理学療法担当スタッフのシルピー氏にも参加してもらい、修了証を発行する。
- ・月に一度の理学療法外来でシルピー氏のスキルアップを図る。

3) KPKS (Kalibari Protibondhi Koran Shomiti：カリバリ障がい者協会、マイメンシン県郊外)

- ・月に一度、理学療法外来を実施する。KPKS 代表ロフィクル氏の妹のインターンシップを通じて、理学療法人材の育成を進める。

4) CPD (Center for People with Disabilities：障害者センター、ディナジプール県 Dhanjuri mission 内)

- ・技術指導の対象であったリィ氏は異動し、トレーニングの必要はなくなった。ディボック氏については、処遇を明確にしたうえで(カリタスに雇用されているため、トレーニングはカリタスが責任をもつべきと考えている)、マイメンシンでのトレーニングの可否を検討する。

(3) タンザニア 弓野綾ワーカー (医師)

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)

St. Ann's Mission Hospital (聖アンナ・ミッション病院)

赴任期間：2015 年 4 月～2018 年 3 月

活動概要：病院での診療と現地スタッフ育成、TAHO の診療統計分析とスーパービジョ

2. 海外諸活動

ンの支援をしている。

1) 聖アンナ・ミッション病院での活動

①外来診療

- ・救急診療と、症例の紹介への対応を継続する。頻度の高い病気の診療の質向上のため働きかけを続ける。
- ・慢性疾患外来を継続し、新規登録患者と、治療を継続する患者を増やす。慢性疾患の治療を長期に継続するために必要な患者への健康教育の機会を多く設ける。他のスタッフと協力して長期的に継続できる形の外来システムを設計する。スタッフの診療能力向上のため、タボラで実施可能な内科慢性期疾患の治療の指針をさらにまとめて共有する。

②病棟診療

- ・救急病棟の入院患者の診療を継続する。また小児・成人病棟の回診に参加し、患者の経過の把握と診療の助言を行う。
- ・朝の症例検討会に参加し、診療上の助言やミニカンファレンスなどを継続する。

2) TAHO での活動

①診療統計分析への協力

- ・協働プロジェクトが 2017 年 3 月に終了した後も、週 2 日、TAHO が主体となって関連保健医療施設の診療統計を作成するために、データ収集・入力・分析を行うことを支援する。

②スーパービジョンへの協力

- ・TAHO 傘下の医療施設を定期的に巡回し、診療内容などに関して視察と助言を行うための支援を継続する。

③保健セミナー開催の支援

- ・2017 年度に TAHO 傘下の医療施設の職員を対象にセミナーの開催が予定された場合に支援を行う。テーマの決定、セミナーの準備、運営、振り返りに協力する。

(4) 短期

ケニア、タンザニアなどにおける短期派遣のニーズに対応する。

【2－2】 研修生・奨学金支援

2016 年度からの継続としてインドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアの奨学生を支援し、2017 年度の新規募集も行う。2016 年度に策定された奨学金事業実施ガイドラインに沿って奨学金協力団体の精査、応募書類の改訂などを続ける。基礎調査とモニタリングのためにインドネシアとネパールを訪問する予定である。

(1) インドネシア

GKST または ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く 4 名を引き続き支援予定である。

故田村久弥元ワーカーや長尾真理元ワーカーの派遣先の病院も GKST または ICAHS 傘下の保健医療施設であった。

2017 年度中にジャカルタにある ICAHS 本部および元奨学生が多く働くスラウェシ島の保健医療施設を訪問し、モニタリングを実施する予定である。

(2) ネパール

浪岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、The LMN アナンダバン病院、UMN、タンセン看護学校、ラリトプール看護学校とその関連保健医療施設で働く 11 名を継続して支援する予定である。

2017 年度中に現地を訪問し、モニタリングと現地基礎調査を実施する予定である。

(3) バングラデシュ

2016 年度に採用したディナジプール県の St. Vincent Hospital に勤務するシスターで看護師の 2 名を継続支援する。St. Vincent Hospital はディナジプール教区附属病院（政府登録有）で看護学校を併設している。病院として 2 年後までに全ての病棟（屋外外来施設、手術室、産科病棟、男女各病棟）への看護師長の配置を予定しており、奨学生 2 名は修了後、この責務を担うことが期待されている。

(4) ウガンダ

UPMB 傘下の保健医療従事者 12 名および Reach Out Mbuya の職員 1 名を継続支援する。そのうち、UPMB South Rwenzori 教区に所属の 1 名（2015 年度採用）は、現地側の事情により契約開始が遅れ、送金、報告書提出などが後ろ倒しになったため、研修期間は終了しているものの、2017 年度に送金がずれ込む形となった。2016 年度の現地調査でのモニタリング結果を踏まえ、特に遅延が多数生じている UPMB の事業管理状況に目を配りながら、支援を継続する。

(5) タンザニア

清水範子元ワーカー、倉辻忠俊元ワーカーおよび弓野綾ワーカーの派遣先である TAHO 傘下にある医療施設で働く保健医療従事者 10 名を継続して支援する。

TAHO 傘下の保健医療施では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしているところは 1 つもない。基本的な短期研修を受けただけで働いているスタッフも多く、看護・助産師、臨床検査技師など基礎的な分野での研修を希望する人が多い。

TAHO では、診療所からヘルスセンターへ格上げとなる施設、またはヘルスセンターから病院に格上げになる施設へ優先的にスタッフを配置し、次に遠隔地の診療所を優先させる計画を持っている。JOCS では TAHO の計画を尊重しながら支援を行う。

2. 海外諸活動

略語一覧

* 職務・職種は、奨学金申請時点のもの

* GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)

* ICAHS : Indonesia Christian Association for Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

* HDCS : Human Development and Community Services (ネパールのキリスト教系 NGO)

* LMN : Leprosy Mission Nepal (ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際 NGO)

* UMN : United Mission to Nepal (ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO)

* UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)

* TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

2017年度支援予定奨学生一覧

2. 海外諸活動

インドネシア

職務・職種	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
会計スタッフ	女	24	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年6月～2020年5月
学生	女	26	ICHAS Bethesda Hospital	医学	2013年1月～2017年12月
助産師長	女	26	ICAHS Permata Clinic	看護学	2015年9月～2017年9月
看護師長	女	43	ICAHS UKI Hospital	看護学修士	2015年7月～2017年7月

ネパール

准看護・助産師	女	33	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年9月～2017年9月
准看護・助産師	女	30	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年10月～2017年10月
診療放射線技師助手	男	43	HDCS Chaurjahari Hospital	放射線診断学	2016年10月～2019年10月
事務・会計担当	男	28	HDCS Lamjung District Community Hospital	ヘルスケアマネジメント 修士	2016年2月～2018年1月
薬局店員	男	40	HDCS Lamjung District Community Hospital	薬学	2016年9月～2019年9月
ヘルスアシスタント	男	24	HDCS Lamjung District Community Hospital	麻酔学	2017年5月～2018年5月
理学療法士助手	女	29	The LMN Anandaban Hospital	理学療法	2016年8月～2021年2月
看護師	女	27	The LMN Anandaban Hospital	看護学	2016年10月～2019年10月
医師	男	39	The LMN Anandaban Hospital	医学	2017年1月～2020年1月
上級保健衛生士	男	47	United Mission Hospital, Tansen	公衆衛生	2014年10月～2017年10月
准看護・助産師	女	45	United Mission Hospital, Tansen	看護学	2014年10月～2017年10月

バングラデシュ

看護師	女	33	St.Vincent Hospital	看護学	2016年7月～2018年7月
看護師	女	31	St.Vincent Hospital	看護学	2016年7月～2018年7月

ウガンダ

抗レトロウイルス療法責任者	女	32	Reach Out Mbuya HIV/AIDS Initiative	公衆衛生	2015年8月～2017年11月
看護助手	女	25	UPMB Amuca SDA HC III	助産学	2014年10月～2017年4月
准助産師	女	25	UPMB Amuca SDA Health Centre III	助産学	2016年4月～2017年10月
准看護師	女	28	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2016年5月～2017年11月
検査助手	男	31	UPMB Diocese of Northern Uganda	臨床検査	2015年8月～2018年7月
准看護師	男	24	UPMB Goli Health Centre/ Nobbi Diocese	看護学	2016年5月～2017年11月

職務・職種	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
准看護師	男	28	UPMB Kanamba Health Centre III/ South Rwenzori Diocese	看護学	2016年5月～2017年11月
ヘルスセンター責任者	男	31	UPMB Kei Health Centre, Here is life	臨床医学・公衆衛生	2012年9月～2018年6月
看護助手	男	30	UPMB Kumi Hospital	看護学	2014年11月～2017年5月
薬剤師	男	30	UPMB Ruharo Mission Hospital	薬学	2014年8月～2018年2月
准看護師	女	38	UPMB South Rwenzori Diocese	看護学	2014年11月～2016年11月
准看護師	男	28	UPMB South Rwenzori Diocese	看護学	2015年5月～2017年5月
准看護師	男	34	UPMB South Rwenzori Diocese	臨床医学・公衆衛生	2015年5月～2018年5月

タンザニア

医療助手	男	21	TAHO Igoko Dispensary	麻酔学	2015年9月～2017年9月
医療助手	男	22	TAHO Kaliua Health Centre	看護学	2015年11月～2018年11月
看護師	女	48	TAHO Ndala Hospital	看護学	2014年8月～2017年9月
医療助手	女	28	TAHO Ndala Hospital	放射線診断学	2015年9月～2018年9月
シスター、病院管理責任者	女	39	TAHO Ndala Hospital	病院運営	2017年9月～2022年9月
医師補	男	32	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2012年8月～2017年8月
受付係	男	23	TAHO St. Ann's Mission Hospital	放射線診断学	2014年10月～2017年10月
医師補	男	30	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2014年10月～2019年10月
看護助手	男	27	TAHO St. Ann's Mission Hospital	薬学	2015年11月～2017年11月
清掃員	男	20	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2016年6月～2019年6月

[2-3]協働プロジェクト(プロジェクト・りとる)(Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

カンボジアの SALT プロジェクトとケニアのシロアムプロジェクトを継続実施する。タンザニアの診療統計分析能力強化プロジェクト（2017 年 3 月終了）とバングラデシュの BDP 学校保健教育プロジェクト（2016 年 6 月終了）については、プロジェクト成果の持続性を調査するために事後評価を行う。

(1) SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey=次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国	: カンボジア
活動地域	: バッタンバン州
プロジェクト期間	: 2014 年 10 月～2019 年 9 月（第 1 年次は試行期間）
協力団体	: バッタンバン司教区ヘルスセンター
受益者	: バッタンバン州内の 16 小学校および 8 中学校の高学年生
プロジェクト目標	: 小中学校への巡回指導による保健教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

2016 年 10 月から第 3 年次（2016 年 10 月～2017 年 9 月）が開始されている。保健教育を未実施の対象校において、順次、導入・展開していく他、引き続き、保健教育のインパクトを測る試みとして、受益者のヒアリングを行う。第 3 年次の対象校は、当初 24 校（小学校 16 校、中学校 8 校）を計画していたが、第 2 年次の実施状況を踏まえ、18 校（小学校 11 校、中学校 7 校）に変更した。バッタンバン司教区のヘルスセンターの医療スタッフの退職・休職が続き、保健教育を担当するスタッフ 2 名がヘルスセンターの活動に駆り出されており、計画どおりに保健教育に専念できなくなったことが理由である。このため、ヘルスセンターの人員配置状況を確認し、プロジェクトの実施体制をモニタリングしていく予定である。

また 5 カ年のプロジェクト期間の折り返しを迎えるため、2017 年度内に中間評価を実施する他、1、2 回の現地モニタリング調査を実施する。

(2) シロアムプロジェクト

対象国	: ケニア
活動地域	: キアンブ地方行政区 インデンデル地区
プロジェクト期間	: 2016 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日（5 年間）
協力団体	: コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者	: シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい（重複障がいが多い）のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標	: シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

2. 海外諸活動

個別支援計画（Individual Education Plan）の作成を 2016 年度内にほぼ終了し、それにそって進めているカリキュラム開発を、2017 年度も継続する。具体的には、①子どもたち一人ひとりの週間活動スケジュール（時間割）に落とし込み、②障がい、症状、動作・行動などが類似の子どもに対する活動プログラムのパターン化（微細運動の組み合わせなどのパターン化）、③教材やツール活用のパターン化を進めていく。

カリキュラム（教育面）拡充のため、短期ワーカーとして教育分野の専門家（特別支援学校教師、養護教諭、幼稚園教諭など）を派遣し、現地スタッフを増員見込みである。またスタッフの能力強化のため、作業療法士ないし教師の訪日研修を 2017 年夏に予定のほか、理学療法士の育成のために、バングラデシュ派遣山内章子ワーカーの 2 度目の短期派遣を検討していく。

第 2 年次モニタリングは、大統領選挙（8 月に予定）の動向をみつつ、1 回目は 5 月下旬、2 回目は選挙後の 11 月頃を予定している。

（3）学校保健教育プロジェクト（事後評価）

対象国	: バングラデシュ
対象地域	: ダッカ
プロジェクト期間	: 2010 年 4 月～2015 年 3 月 2015 年 4 月～2016 年 3 月（延長期間）
協力団体	: BDP（Basic Development Partners）
受益者	: BDP の運営する小学校に通う生徒（男女）約 3,000 人、同校を卒業した高校生女子約 100 人
プロジェクト目標	: 対象の子どもたちが健康に関する正しい知識をもち、適切に衛生行動がとれるようになる。

本プロジェクトは 2016 年 3 月に終了し、以降、BDP が独力で学校での保健教育を継続する予定となっていた。本年は事後評価として現地を訪問し、BDP による学校保健教育の現在の実施状況と他地域の BDP 学校への保健教育の拡がりを確認する。

（4）TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト（事後評価）

対象国	: タンザニア
対象地域	: タボラ州
プロジェクト期間	: 2013 年 9 月～2016 年 8 月 2016 年 9 月～2017 年 3 月（延長期間）
協力団体	: TAHO（Tabora Archdiocesan Health Office） （タボラ大司教区保健事務所）
受益者	: TAHO とその傘下の 10 の保健医療施設（病院や診療所など）
プロジェクト目標	: TAHO が傘下の 10 の保健医療施設の医療データを収集、分析、

フィードバックできるようになる。

2017 年 3 月にプロジェクトは終了した。2017 年度は事後評価として現地を訪問し、診療統計に係る作業の実施状況とその精度などを確認する。

【2－4】災害救援復興支援

現在のところ支援予定はないが、海外で災害が発生し、要請を受けた場合には迅速に支援を検討する。

3. 国内諸活動

近い将来にワーカーとして JOCS から派遣される人材を発掘育成する。また 2017 年度は「5 カ年計画 2013」の最終年にあたり、特にマーケティングに注力し、支援者を獲得できるように活動する。また国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動においても JOCS の認知度を高めていく。東日本大震災被災者支援は最終年となる予定である。

【3－1】国際保健人材育成

2017 年度も、将来国際保健医療協力の分野で働きたいと思っている学生および現職の保健医療従事者を対象とした国際保健医療勉強会、フィールドセミナー、スタディツアーを実施する。2016 年度は実施できなかった個別キャリア相談会も実施する。

（1）国際保健医療勉強会

将来国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に、JOCS 東京事務局にて年 4 回開催する。毎回勉強会の後に実施しているキャリア相談会（グループ相談会）を 2017 年度も継続して実施する。

2017 年度は勉強会後のキャリア相談会とは別に、個別で森田事務局長と面談をするキャリア相談会（個別相談会）も実施する。

（2）フィールドセミナー

国際保健医療協力の分野で働くことを希望する人に対し、国内で活動する草の根の働きをしている人から、弱くされた人々とともに生きる姿勢を学ぶことを目的として実施する。開催場所は、横浜市寿地区やその他の草の根の働きが行われているフィールドを検討する。

（3）スタディツアー

3. 国内諸活動

将来的に JOCS のワーカーをはじめ、国際保健医療の分野で働くことを希望する人を対象に、タンザニア・タボラ州へのスタディツアーを実施する。タンザニアでは、協力団体であるタボラ大司教区保健事務所やその傘下の保健医療施設を訪問する予定である。

【3－2】東日本大震災被災者支援

東日本大震災から 6 年が経過した。JOCS では震災発生後から地元団体と協力し、被災者支援を行ってきた。2017 年度は、岩手県と福島県で活動を継続する。活動には、2015 年度までにいただいた東日本大震災被災者支援指定寄付を充てる。

（1）岩手県釜石市（協力先：特定非営利法人カリタス釜石）

年 4 回看護チームを派遣し、仮設住宅、復興住宅および在宅の被災者の方々の訪問ケア活動（傾聴や健康相談など）とカリタス釜石が実施するお茶っこサロン（仮設住宅集会所などで開かれている被災者同士の交流の場）への協力を行う。

（2）福島県内児童養護施設（協力先：特定非営利活動法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会（略称：ICA 福子））

ICA 福子は、福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うために活動している。2017 年度は、福島市の「福島愛育園」での個人被ばく線量測定サービス（クイクセルバッチ）着用による外部被ばく量の実態把握と記録を支援する。年齢が低い子どもはバッチの着用が難しい状態であるため、子どもと一緒に生活をする職員が着用し、子どもの外部被ばく量を推測する。

【3－3】国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な環境におかれた人々の状況の周知、国際協力活動に関する支援および協働を育む機会の提供として、以下の活動を行う。

（1）使用済み切手運動

2017 年度も、前年度に引き続き広報活動を行い、使用済み切手、書き損じハガキ、外国コインの収集に努める。このため、送料負担キャンペーンや書き損じハガキキャンペーンを行う予定である。

・広報チラシ作成

書き損じハガキキャンペーンを周知するためのチラシを作成する。新規の切手運動協力者を獲得するために、教会向けの DM サービスを用いて、全国の約 8,000 教会に配布する予定である。

・送料負担キャンペーン

2017 年 4 月 1 日～9 月 30 日の半年間、送付合計が 5 キロ以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキなどの送付を、ゆうパックで寄付していただいた場合に関り、送料を着払いで負担する。

・各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2017 2017 年 4 月 21 日（金）、22 日（土）

（都立産業貿易センター台東館）

スタンプショウヒロシマ 日時未定

高知スタンプショウ 日時未定

（2）地区 JOCS 活動支援

仙台、足利、町田、京都、大阪、神戸、芦屋、播州、四国高知各地区において、支援者グループによる、地域のイベント出展やチャリティコンサートなどの催し物が開催される予定である。各地区の催し物への、報告会開催などの支援を行う。

（3）関西 JOCS バザー

第 23 回目のバザーを 5 月 13 日（土）に開催する。ボランティアによるバザー委員会が中心となり、大阪聖パウロ教会を会場に行う。場所の提供、その他側面からの支援として関西事務局が関わる。「切手を持ってバザーに行こう！」をキャッチコピーに、多くの方々にバザーに来ていただき、JOCS の活動を広報し、使用済み切手運動を広めることに努める。

（4）講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会、教会など、各団体の希望に沿った講演ができる講師を派遣する。特に子ども向けプログラムの充実を目指し、学校や幼稚園からの依頼に対しては、先方の教師と相談し、できるだけ参加型のワークショップを提供する。学校が主催するキャンプや保護者参加のイベントなどへの講師派遣依頼にも対応できるプログラムを用意し、参加者の意見を聞きながら改善していく。

（5）事務局見学受け入れ

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業のボランティアグループなどの希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情や海外保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

（6）視聴覚資料

希望者に DVD、写真パネルの貸し出しを行う。特に、JOCS の支援を受けて地域の人々のために奮闘している現地の保健医療従事者の活動を紹介した DVD「心をひらいて」お

3. 国内諸活動

よび「カシ・ナマ・ジュパン」を多くの方に紹介する。

(7) JOCS のつどい

東京と関西で開催する。JOCS の活動を知らない方々に来場してもらえるよう広報に努める。また、参加してくださった方々の理解と賛同を得て、新規支援者となっていたいただけるような道筋をつくる。

東京 詳細は未定

関西 ①関西 JOCS のつどい 2017

タンザニアで出会った涙と笑いー「みんなで生きる」を考える

日時：2017 年 5 月 20 日（土）午後 2 時～4 時

場所：日本キリスト改革派 神港教会（神戸市灘区）

イベント内容：弓野綾タンザニア派遣ワーカー報告会

関西学院聖歌隊 コンサート

②関西 JOCS のつどい 2018

2018 年 2 月開催予定

(8) 映画会

東京で開催する。JOCS の使命や活動に沿ったテーマを扱った映画を上映する。来場者に JOCS のことを知ってもらい、既存支援者からの支援を強化し、新規の方からも活動への支援を募る機会とする。

(9) プレスリリース強化

新聞社、キリシタン系雑誌に、JOCS の活動の取材のきっかけとなるよう、海外事業や使用済み切手運動の状況やニュース性のある話題などを定期的に送付する。また、勉強会や映画会などのイベント開催時にも、開催情報を送付する。

(10) オープンサタデー

「一緒に考え、参加して発言する」勉強会を開催する。毎回多彩な講師を迎えて開催することで、平日 JOCS の活動に関わっていただけない方々に、実際に事務局に来ていただき、活動に関わっていただくきっかけを提供する。

(11) 他団体と連携した子どもプログラム

NCC（日本キリスト教協議会）教育部が子どもたちを対象に実施する「平和のきずな 献金 2017」の教材づくりに協力する。世界で困難の中で生きる人々の状況と、その人々を支えている活動を学ぶ教材を作成し、提供する。

(12) ネットワーク活動

国際協力 NGO センター(JANIC)、関西 NGO 協議会、障害分野 NGO 連絡会(JANNET)、

カンボジア市民フォーラム、公益法人 NGO 連絡会のメンバーとして、情報交換や、一団体では困難な活動を行っていく。

【3-4】 マーケティング

会員数は、過去長らく年間の純減 200 名が続いていた。「5 カ年計画 2013」において、2017 年度末までに退会者数と新規入会者数を均衡させることを目標としている。最終年度は、入会者数 300 名以上、退会者数 300 名以内が目標である。

2014 年度に広報の専門家の指導、助言を得て理事・監事・職員全員で行ったブランディングにおいて、アプローチする対象をクリスチャンおよびキリスト教共感層とすることを決定した。特に、教会に通っている 50 代～60 代の女性および定年後の 60 代の男性、キリスト教主義学校関係者、友の会会員を主対象としている。これらの層の方々に対して、JOCS の活動への賛同・共感を得られる広報を行っていくとともに、会員・寄付者の継続率向上を図っていく。2017 年度は帰国ワーカーがいないため、事務局スタッフが教会を訪問しての活動報告会を増やしていきたい。

(1) 会報誌「みんなで生きる」の企画・編集

支援者への説明責任を果たし、活動への理解と共感を得るために、年 7 回（偶数月 10 日と 11 月 10 日（子ども号））発行する。

海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）の活動報告のほか、国内活動、地区 JOCS の活動なども掲載する。とくに現地の人々の声や読者の声の掲載に力を入れる。「子ども号」では、読者層として想定している年代の子どもの参加を募る。

(2) 年次報告書

すべての支援者に前年度一年間の活動の報告を行うことで、JOCS への信頼を維持し、支援の継続と寄付額の増加を目指す。

年 1 回 6 月に A4 版冊子形態で発行し、会報誌・夏期募金趣意書とともに郵送する。海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）の活動報告を掲載する。その際、共に生きる現地の人々の声もできるだけ多く掲載する。そのほか、国内事業や支援者の声、会計報告も掲載する。

(3) ホームページ

情報発信媒体としてのホームページをさらに活用する。ホームページを通して、多くの人に活動を知ってもらうために、キーワード検索からのアクセスを増やし、さらにはホームページのファンドレイジング機能を高めることを目指したい。更新頻度を高めるために、HTML（ウェブページを作成するために開発された言語）の知識がなくてもデザインやレイアウトの変更ができるようにしたり、利用者の閲覧頻度を高めるために、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、複数の異なる端末でも情報が見やすくな

3. 国内諸活動

るようにしたりする必要がある。このような技術的な問題の解決のために、ホームページ制作会社や団体を利用することも視野に入れて、ホームページの改訂作業を進める。

(4) 「JOCS フォーラム」の発行

ワーカー報告書や国際保健医療勉強会の講演原稿を掲載し、保健医療分野の専門的な関心に応えられ、記録として役立つような冊子とする。完成した冊子は総会の資料と共に社員会員へ送付する。

(5) 雑誌広告

JOCS の認知度を上げ、新しい支援者を獲得するために、キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の7月号、1月号に1ページ広告を掲載する。JOCS の活動への共感を得られるよう、文章を中心とした「読み物」の広告とする。

(6) 会員マーケティング

新規入会者数の目標を300名とし、会員獲得のための施策を実施する。主な施策は、キリスト教共感層を主対象にした職員による活動報告会、夏期募金、冬期募金を送付する際の入会のお願いの手書きメッセージ書き、前年度のつどいや映画会などのイベント来場者へのフォロー、その他、新入会キャンペーンなどを実施する。

また、会員の継続率を向上させるため、引き続き「会費納入のお願い」「領収証」の送付時などに、より細やかなコミュニケーションに努める。

(7) 募金

会報誌や募金趣意書、年次報告書などの広報物、映画会などのイベントで、活動内容と成果を伝え共感を得ることで、寄付収入を増やす。

夏期募金については、募金趣意書を、例年のように年次報告書と同封して支援者に送付する。

冬期募金については、それ単独で活動内容と成果を伝えることができるような趣意書を作成し、支援者と、直近の1年以内に使用済み切手を初めてご寄付くださった人に送付する。

(8) 遺贈マーケティング

遺贈や相続財産の寄付に関心のある方向けに作成したパンフレットの活用方法を検討する。また、「公益法人に関する NGO 連絡会遺贈分科会」のメンバー7団体で情報交換をしつつ、共同でのセミナー開催などを検討する。

(9) 助成金

2016年度に助成が決まった「Panasonic の NPO サポート ファンド for アフリカ」を通じて、広報基盤の強化を行う。タンザニアで撮影した映像やインタビューを編集して、

タンザニアでの保健医療協力活動や現地のカウンターパートおよび受益者の声を伝えるための動画を作成する。完成した動画を、新規支援者獲得や既存支援者の支援継続のために活用する。

また、作成した動画や今後作成する動画を最大限に活用するためのマーケティング支援を受けるため、同ファンドに2年目の助成申請を行う。

4. 運営体制

公益法人として法律で定められている社員総会および理事会の開催計画は以下のとおりである。また、透明性の高い組織運営を行うために設置している委員会活動について記す。

〔4－1〕社員総会

第56回定時社員総会を、2017年6月10日（土）に日本基督教団信濃町教会にて開催する。

〔4－2〕理事会

2017年度は年7回開催する予定である。今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、久保礼子、
土居弘幸、名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆
監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

〔4－3〕委員会

（1）関西地区活動委員会

委員長：船戸正久 副委員長：彼谷廣子

委員：宇山進、大谷透、小野勝、加輪上敏彦、久保礼子、島田恒、杉村（諏訪）恵子、
中村満子、和田浩
渋谷理香（事務局）

- 1) 委員会は2ヵ月に一度の頻度で、JOCS 関西事務局にて開催予定。各地区 JOCS の活動報告など情報交換を行う。それぞれの地区 JOCS の活動を互いに知ること、課題を共有し合い、また解決できるようにしていきたい。
- 2) 「関西 JOCS のつどい 2017」「関西 JOCS のつどい 2018」の開催に協力する。2016年度内にイベントを開催できなかったこともあり、今年度は5月と2018年2月の2回、開催を予定している。関西地域の会員の方はもちろん、会員以外の方々にも参加してもらえるようなイベントを企画する。イベントにおいて、JOCS を知ってもらい、JOCS の支援者になっていただけるような内容のものを目指す。

4. 運営体制

(2) 奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委員：澤田和美、杉村（諏訪）恵子、細谷たき子、宮崎雅

服部由起、松浦由佳子（事務局）

奨学金規定に則り、研修終了後にその地域に長くとどまり、住民の健康の維持、増進のために働きたいと願う人材であるか、研修内容が地域の保健医療事情の向上に資するものであるか、研修内容が地域の緊急性やニーズにあっているかなどを考慮し、奨学生の選考を行う。2018 年度奨学生の募集に先立ち、奨学金カウンターパートなど奨学生選考の方針について協議を行う。

(3) 財務委員会

委員長：榛木恵子 副委員長：羽山信輝

委員：黒川純

小池宏美（事務局）

2017 年度も、予算が適切に執行されているかどうかを確認していく。必要であれば、補正予算案を協議し、会長に提出する。また年度末には事務局が立案する 2018 年度予算案の調整を行い、会長に提出する。

2017 年度は「5 カ年計画 2013」の最終年度にあたり、収支均衡が求められている。依然厳しい財政状況が続いているが、健全かつ安定した財務運営が行われるよう、委員会でも大所高所から協議し、理事会、事務局に提言を行っていききたい。

【4－4】事務局

事務局長・海外事業部長 森田隆

事務局次長・マーケティング部長・管理部長 名取智子

東京事務局 飯田多香子（6 月～）、河井敦、小池宏美、高橋淳子、服部由起、
松浦由佳子、森田真実子、山中信

関西事務局 渋谷理香、石野祥子